

1. 県民医療枠B・Cについて

和歌山県立医科大学では、和歌山県内で医師不足が深刻な「産科医」等を育成するために、令和5年度入学者選抜より、下記のとおり県民医療枠を3種類に分け、診療科を指定した学生募集を実施しております。

また、診療科指定により入学した者に対しては和歌山県から修学資金が貸与され、卒業後、通常9年間のキャリア形成を本学の指定された診療科で行います。その場合は、貸与された修学資金の返済は免除されます。

記

1 県民医療枠の種類

- (1) 県民医療枠A 県内で従事する医師を育成する募集枠(診療科指定なし)。学校推薦型選抜および一般選抜で募集。
- (2) 県民医療枠B 県内で「産科」に従事する医師を育成する募集枠。学校推薦型選抜で募集。
- (3) 県民医療枠C 県内で「産科・小児科・精神科」のいずれかに従事する医師を育成する募集枠。一般選抜で募集。

2 県民医療枠の募集方法及び募集人員(予定)

募集方法	募集人員
学校推薦型選抜(推薦)	県民医療枠A 8名程度、県民医療枠B 3名以内
一般選抜(前期)(推薦)	県民医療枠A 10名程度、県民医療枠C 2名程度

3 県民医療枠の選抜方法

詳細については、7月下旬公表予定の「和歌山県立医科大学医学部入学者選抜要項」にてご確認ください。



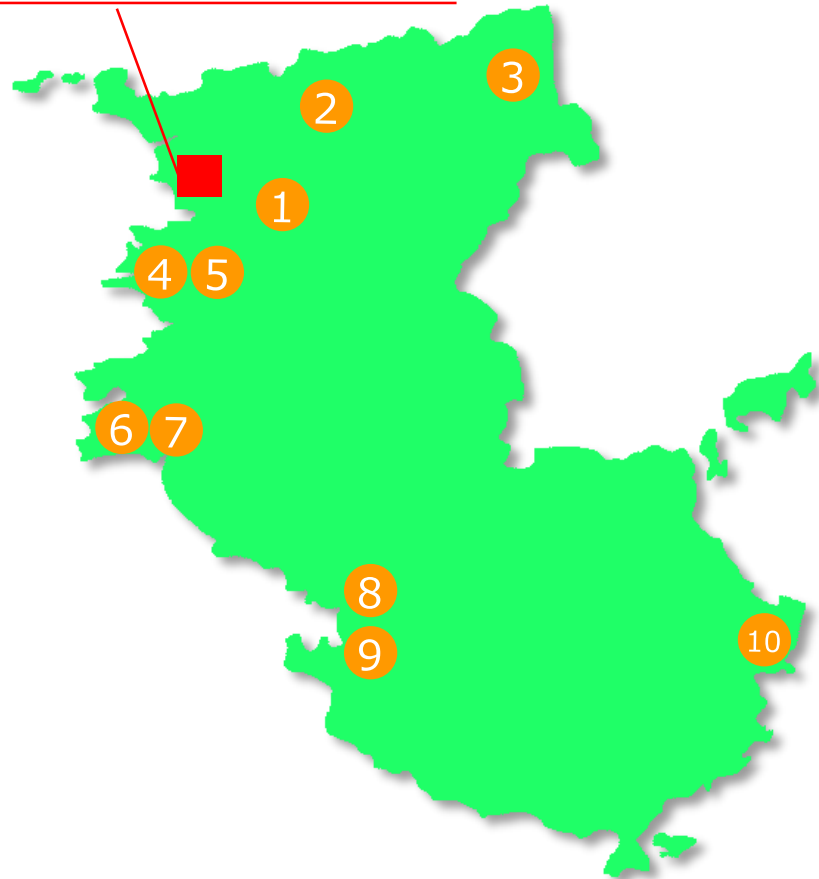
— 県民医療枠 B・県民医療枠 C —

キャリア形成プログラム 特定診療科コース

医学部 医学生 1～6年生	9年 県内勤務期間								
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
	本学での 初期臨床研修		3年 地域派遣			本学等での 専門研修		2年 地域派遣	
●本学の専門研修プログラムに登録									

3. 県民医療枠B・C入学者が勤務する和歌山県指定の公的医療機関等

和歌山県立医科大学附属病院



産科

橋本市民病院③
紀南病院⑧

ひだか病院⑦
新宮市立医療センター⑩

小児科

公立那賀病院②
有田市立病院④
ひだか病院⑦
新宮市立医療センター⑩

橋本市民病院③
(独)国立病院機構和歌山病院⑥
紀南病院⑧

精神科

国保野上厚生総合病院①
ひだか病院⑦

和歌山県立こころの医療センター⑤
紀南こころの医療センター⑨

4. 和歌山県修学資金貸与制度について

— 県民医療枠 B・県民医療枠 C —

(1) 貸与条件

医師免許取得後、引き続いて修学資金貸与期間の2分の3相当の期間（最低9年間）、和歌山県が指定する県内の公的医療機関等に勤務すること。

このうち2分の1以上の期間（最低5年間）は和歌山県が指定する地域派遣対象医療機関において、以下の区分による診療業務に従事すること。

県民医療枠 B の入学者：産科※の業務

県民医療枠 C の入学者：産科※・小児科・精神科のうち自身が選択した診療科の業務

※「産科」とは、分娩取扱医療機関における分娩業務を含む
産婦人科（婦人科のみを除く）の診療業務をいう。

(2) 貸与金

金額（1 か月）	自宅外から通学する者	15 万円
	自宅から通学する者	10 万円

(3) 貸与期間

6 年間(通常)

(4) 返還免除条件

(1) の貸与条件を全て満たした場合、貸与金の返済を免除する。

ただし、条件を満たさなかった場合は、貸与金に一定利息を加えた額を所定の期日までに返済すること。

(注) 当該修学資金の内容については、令和8年6月30日時点での予定であり、今後、変更する場合があります。

(和歌山県修学資金の詳細について)

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050100/ishisyugaku/ishisyuugaku.html>



(問い合わせ先)

〒640-8585 和歌山市小松原通1-1

和歌山県庁 福祉保健部福祉保健政策局 医務課 TEL 073-441-2610

5. 産科・婦人科学講座からのメッセージ

＜診療科の内容、特徴＞

産科は“女性の一生のライフステージ”にかかわることができる診療科だといわれます。小さな受精卵がお母さんの子宮の中で赤ちゃんへと育つのを手助けし、崇高な“生命の誕生”に最初に関わることができるのは産科医であり、「おめでとう」と妊婦さんに声をかけ、喜びや感動を共有できる唯一の科です。産科医としてのやりがいと共に、母子の2つの命を預かっているという重い責任感を感じる瞬間でもあります。



一方、婦人科領域では若い女性のホルモンバランスや健康管理、不妊に対する生殖補助医療、女性特有の疾患や婦人科がんの手術や治療に至るまで診療の範囲は広く、女性診療科とも呼ばれています。受験生の皆さんで『県民医療枠 B』として入学された方や『県民医療枠 C』として入学し産婦人科を希望される方には、医学部6年間で学内および県内各地域での産科医療を肌で感じていただき、そこで活躍されている若い産科医の先生から産婦人科診療に必須の“チームの和”の大切さや高い医療倫理感を学んでいただけるようにします。卒後は和歌山県立医科大学にて初期研修2年間で修了後、7年間（卒後9年間）県内の産科医療に従事します。具体的には大学病院での最先端医療から地域のアットホームな産科婦人医療を通じてスキルアップと全人格的なキャリア形成を可能にします。卒後6年で産婦人科専門医を取得し、その後は専門領域のスペシャリストや大学院や留学に進み研究者を目指したいなど、個々の希望に沿った人材育成を行います。



＜受験生へのメッセージ＞

医師の使命は病気をもった患者さんを治すことですが、産科は、生命の誕生という喜びや感動を妊婦さんやご家族と共有できる診療科です。どんなにAIやロボットが活躍する時代になっても、人々が生きている限り、この崇高な瞬間を手助けできる産科医は絶対に必要とされます。県民が安心安全に出産できるように、私たちと一緒に和歌山県の未来の世代のために、ぜひ産科医療をやりましょう。

6. 小児科学講座からのメッセージ

<診療科の内容、特徴>

新生児から15歳頃までの子どもたちが抱える病気の診断と治療、予防接種や健康診断を行います。子どもの病気は心臓・消化器・神経疾患など多岐にわたるため、大学病院では循環器・消化器・腎臓・血液・神経・児童精神・内分泌・新生児など、各診療分野を専門とする小児科医が対応する体制を備え、子どもたちが少しでも健康に幸せに暮らせるよう取り組んでいます。

<専門医への育成の取組（学部在籍中6年間および卒後9年間）>



学部在籍中は、4年生後半までに小児の正常な発達と様々な小児疾患の病態について知識を備えます。4年生後半からは外来・病棟実習に参加し、自身が備えた知識を駆使して鑑別診断など実践的に取り組みます。卒後は大学病院や県内連携医療機関で上級医の指導のもと小児患者の診療にあたり、採血やカテーテル挿入など実践的な技能の修得を目指し、子ども・家族とのコミュニケーション力にも磨きをかけます。

卒後5年間で専門医取得に必要な知識、技能、態度を身につけ、小児科専門医資格の取得を目指します。専門医取得後は大学病院や県内連携医療機関においてさらに4年間修練し、循環器・消化器・血液・神経・新生児など様々な専門分野の資格修得を目指すことができます。また、希望者は学位取得や国内海外留学を行うことも可能です。



<受験生へのメッセージ>

子どもの笑顔は社会を幸せにします。一人でも多くの子どもたちが笑顔になれるよう取り組む小児科医は素晴らしい職業です。皆さんを小児科医局でお待ちしています。

<先生の講義はこちらから！！>

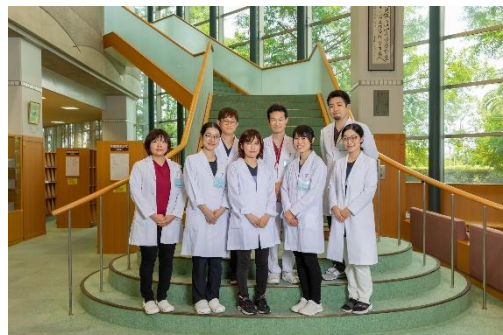


<https://douga.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2022001808?back=>

7. 神経精神医学講座からのメッセージ

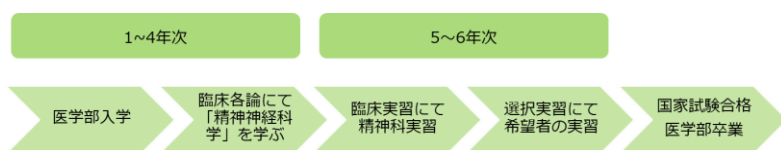
私たちと一緒に働きましょう

神経精神医学教室の淵源は昭和20年にあり、長い歴史と伝統をもちます。我々は和歌山県の精神医学・精神医療・精神保健福祉を今よりも少しでも向上させようと、日夜、努力しています。皆さんも是非、私たちの仲間になって、精神科を取り巻く広範な領域のさらなる発展に貢献して、一人でも多くの方が希望を持って、自分らしく、豊かな人生を送れるように尽力してみませんか。熱意をもった皆さんの入学を心からお待ちしています。



入学後の精神科医養成に向けたキャリア・パス

さまざまな専門分野がある内科などと比べると、精神科のキャリア・パスの出口は狭いと思われるかもしれません。ところが、精神科のキャリア・パスは意外なほど広いので



す。最近は精神疾患それ自体に加えて身体の病気を抱えた患者さんを診療する機会が著しく増えており、総合病院の精神科における精神科医のニーズはますます高まっています。さらに、精神科と他の診療科の境界領域で勤務する精神科医も増えていきます。また、心理療法に関心の強い精神科医のなかには、心理学部の教官になるというキャリアを選ぶ医師もいます。このように、心の問題は多様化し、精神科医が活躍する場面は明らかに増えています。誰でも医師になりたての頃は、自分が本当のところどういう仕事に向いているのかわかりません。例えば大学卒業時は内視鏡の技術を磨きたいと考えていた内科志望の医師が、実際に実技をしてみて不向きだと気づく場合もあるでしょう。精神科も同様で、もともと興味があった分野に挑戦した後、違和感を覚えることがあります。精神科は活躍の場のバリエーションが豊富なため、そのまま留まりながら仕事の内容を大きく変えることができます。医師自身もその人生のなかで、人生のさまざまな「危機」に遭遇します。出産や子育て、親の介護、自分自身の病気などをきっかけに、仕事に対する考え方が変わることもあります。当教室では、そのような事態が起こった場合でも、ポジティブな意味での方向転換を誰もができるように、教室全体としてのサポートを心がけています。

受験生への MESSAGE



お問い合わせ：和歌山県立医科大学・神経精神医学教室

HP：<https://www.wakayama-med.ac.jp/med/seishin/index.html>

和歌山県立医科大学

神経精神医学教室 教授・診療科長

紀本創兵

日々、若手医師・学生と対話を通じて、充実した毎日を送ることができています。

医師としての第一歩、そしてキャリア形成を精神科医として、踏み出しませんか？

<先生の講義はこちらから!!>



<https://doug.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2022001810?back=>